

鹿児島空港の航空需要予測等調査業務委託 仕様書

1 業務名

鹿児島空港の航空需要予測等調査業務

2 目的

本業務では、コロナ禍を経た環境変化を踏まえ、今後の鹿児島空港の将来像を検討するための基礎調査として、航空需要等の調査を行う。

調査に当たっては、本県の重要な基幹産業である観光の視点も踏まえつつ、専門的知見に基づき客観的な将来の需要予測を行う。併せて、国内外の動向や他空港の事例も参考にしながら、鹿児島空港が直面する課題の分析や論点整理を行い、県の検討を支援することを目的とする。

3 業務の内容

上記の目的を達成するため、以下の調査を実施する。

ただし、本仕様書に記載のない事項であっても、より効果的な成果を得るための提案を妨げるものではない。

(1) 航空需要の将来予測

国内線・国際線・貨物別に、マクロ経済指標等を用いた客観的な手法により、将来の航空需要を推計する。その際、複数のシナリオ（標準ケース、上振れケース、下振れケース）を設定し、多角的な視点から分析を行う。

(2) 観光動向を踏まえた目標設定の方向性整理

上記(1)の需要予測結果と、鹿児島県観光振興基本方針が示す目標値を比較分析する。併せて、インバウンド誘致の視点から、国内の他空港を経由して本県へ流入する訪日外国人旅行者数の推計・分析を行う。さらに、航空需要の増加が県内の受入環境（宿泊、二次交通等）へ与える影響を考察し、将来の目標設定に向けた論点を整理する。

(3) 空港の現状と課題の整理

- ・ 空港を取り巻く環境分析：他空港の技術導入・活性化事例を踏まえ、鹿児島空港の利便性向上やにぎわい創出の方向性等を分析する。
- ・ 関係者ヒアリング：空港ビル会社等の関係者にヒアリングを行い、ターミナルビルの現状や運営上の課題を把握する。
- ・ 一般向けアンケート：空港内等にQRコードを配架するなどの方法により、簡易的なWEBアンケートを行い利用者のニーズや課題を把握する。

(4) アドバイザリー業務

上記調査と並行し、国内外の先進事例や国の政策動向など、専門的知見に基づく情報提供や助言を適宜行う。

4 成果品

業務報告書 （電子データ） 1 式

5 その他

- (1) 成果品その他本業務で生じる著作物等に関する一切の権利は、すべて委託者に帰属するものとし、受託者は委託者に無断でこれらの使用、貸与及び公表等を行ってはならない。
- (2) 受託者は、業務の遂行に際して知り得た情報等について、契約期間中及び契約期間終了後のいずれにおいても、委託者の許可なく他の業務等に使用したり、第三者に漏らしたりしてはならない。
- (3) 受託者は、委託者と緊密な連携を保ちつつ、業務を遂行するものとする。
- (4) 業務の遂行に当たって、本仕様書に定めのない事項が生じた場合、または疑義が生じた場合は、速やかに委託者と受託者で協議を行うものとする。